

体温計

vol.149
2021 2

月号

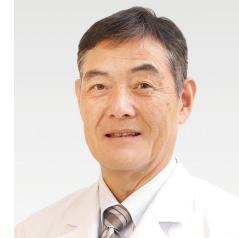
新型コロナに立ち向かおう

当院は静岡県で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、「新型コロナ感染症から逃げない」として新型コロナに立ち向かっています。令和2年2月のダイヤモンドプリンセス号の時から患者さんを受け入れ、重症例、中等症症例を主に診療しています。ECMO（体外式膜型人工肺）も3例に使用しました。新型コロナ感染症の患者さんの治療には、看護師などの人手が多く必要です。このため当院ではコロナ以外の一般病床を88床減らして感染症病棟に看護師を集めています。

職員は新型コロナ感染症の診療でかなりのストレスを感じ続けていますが、今まで多くの皆様から当院へのご支援をいただきました。これは大変大きな励ましとなっています。ここに御礼申し上げます。

新型コロナ感染症の治療は各病院でしっかりと行われますが、予防がとても大切です。「マスクの着用、食事中の会話を控える、頻回の手洗い、禁煙」を行って、ご自分とご家族を守ってください。

現在も感染症病床は患者さんが多く入院しています。新型コロナ感染症が今後どうなるか、まだ予見できませんが、これからも当院は頑張っていきます。



地方独立行政法人
静岡市立静岡病院
病院長 小野寺 知哉

今こそ、守ろう！大切なこと 自分のために！ みんなのために!!

いつもマスク



こまめに
手洗い、手指消毒



飲みながら食べながら
話さない
20時前も！

黙食



禁煙も
大事！



喫煙者が重症化する症例が見られます

Topics

新型コロナに対する当院の取り組み P2

「口腔外科」舌がんについて P6

「看護師の特定行為研修」実施中 P8

新型コロナに対する当院の取り組み

新型コロナの治療について

当院での新型コロナ患者さんの治療は、昨年2月のクルーズ船で発生した患者さんの受け入れから始まりましたが、この1年間で、治療方法も大きく変化してきました。

最初の頃は対症療法が主体で、使用できる薬剤も限られていましたが、現在では各症状に有効な薬剤が判明し、重症化する患者さんに対する治療の手法も確立してきています。最重症の呼吸不全で、人工呼吸器でも十分な酸素を得られない患者さんについては、患者さんの状態に応じて ECMO（体外式膜型人工肺）を用いた治療も行っています。実際の治療は、内科系の全診療科が分担して行っています。院内に設置した対策本部で常に情報や課題を共有し、第一種感染症指定医療機関としての役割を皆で果たしていこうと協力しています。

さて、世間では新型コロナ患者さんの発生状況が日々報道されていますが、結果として過剰な不安を招いているように感じます。残念ながら新型コロナで亡くなられる方がいるのも事実ですが、病気の一つとして冷静に受け止める必要があります。

新型コロナは飛沫感染のため、人と話すときのマスク着用やこまめな手洗い・消毒といった基本的な感染予防を確実に行なうことで、感染リスクは大幅に下げられます。新型コロナに不安や恐怖を感じるのは自然なことです、一方で「怖がり過ぎない」ことが大切です。



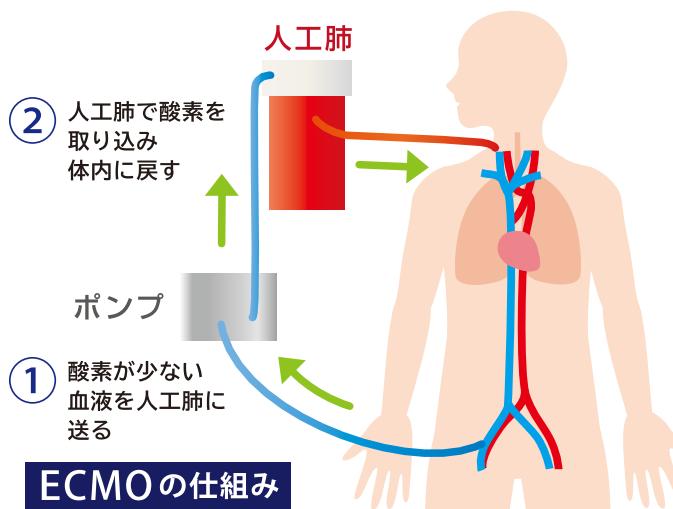
感染管理室長
岩井一也

エクモ 体外式膜型人工肺 ECMO extracorporeal membrane oxygenation

新型コロナウイルスは、時に非常に重篤な肺炎を起こし生命が脅かされます。人工呼吸器を用いても体内に必要な酸素を取り入れられない時は、ECMO（体外式膜型人工肺）を導入することができます。これは、太いカテーテルを静脈2ヶ所に挿入し、ポンプで血液を動かし、人工肺で酸素化して体内に戻す治療です。

当院では県内で唯一複数の新型コロナ症例に導入しました。救命し元気に退院できた患者さんもいます。しかし、エクモは肺炎そのものを治す機器ではなく、基本となる薬物治療の間、酸素供給を肩代わりし肺を休め、その回復を待つものです。

(循環器内科 科長 川人充知)



エクモ装着時の様子

新型コロナの看護体制

昨年2月の新型コロナ患者さん受け入れ開始以来、看護部では感染拡大に応じて看護体制を柔軟に変更してきました。

まず、2月の時点で、各病棟から選抜した看護師十数名を感染症病棟に配置しました。

4月には感染の拡大を受け、ECMOを用いる重症患者さんやコロナを疑う患者さんを看護するため、3つの病棟を閉鎖し、看護師を50名以上に増員しました。

その後、一時的に感染が落ち着き、一部の病棟の閉鎖を解除しましたが、新たな感染の波に備えるため、8月下旬に「重点医療機関」の指定を受け、改めて3つの病棟を新型コロナ患者さん専用としました。

新型コロナ病棟の看護師には、感染管理室副室長の田中感染管理認定看護師が中心となって感染症対策のトレーニングを実施しています。

冬場になり満床状態が続き、感染症以外の一般病床の看護師も、とても忙しく働いています。その中でも、いつもと変わらぬ患者さんにやさしい看護を続けていきます。

(副病院長兼看護部長 塚本ひとみ)



救急の現場から

救急隊からの要請を受け、救急車が到着する前から疑われる疾患、処置・検査を医師・看護師でディスカッションしていると救急車が到着する。患者さんに“お名前教えてください”と声を掛けながら意識ははっきりしているか患者さんの様子を観察する。救急外来のいつもの診療の流れだ。

市民からの救急要請に「24時間断らない救急」を合い言葉に救急医療を担う。昨年は毎晩のように、熱が出たからコロナではないか、コロナ検査をして欲しいと電話が相次ぎ、帰国者接触者外来とコロナ陽性者の診察を救急外来が対応することになった。漠然とした不安を抱えながら、第2波、第3波とコロナの波は大きくなり予想がつかない。胸痛や呼吸苦で救急搬送される患者さんも知らないうちにコロナに感染しているかもしれないし、コロナ陽性者が体調を崩して救急搬送されることも多くなった。

陽性者の診察は医師1名と看護師2名が必要。限られた人数のなかで診療が複雑になり、スタッフから感染の不安や本来の救急外来業務ができない、人手が足らない、などの声があがった。

感染管理室の医師や認定看護師と何度も話し合った。私たちが徹底したことは、全ての患者さんに手指衛生をしてもらい清掃を徹底すること、そして、「私あなたも濃厚接触者にならない」とことだった。

看護師だけでなく医師もアルコール製剤を携帯し、診療後の清掃は全員で

行っている。状況を考え適切な予防具を選択するトレーニングも繰り返した。考えてみると、救急医療において当たり前のことを徹底したことだ。そして、医師・看護師だけでなく事務員や看護助手など救急外来に携わる全ての職員が力を合わせ、一つのチームになることの大切さを実感している。

患者さんの状態は？何を準備する？救急車が到着する。「お名前教えてください」いつものように患者さんに声を掛け診療がスタートする。

(救急外来 看護師長 太田明子)



口腔外科

舌がんについて

口腔外科主任科長 おおやま よしお
大山巖雄



口腔外科とは、



こうこう 口腔(口のなか)、顎(あご)・顔面、ならびにその周囲に起こる病気を扱う診療科です。親知らずや歯が原因となる病気から、がん、口腔粘膜疾患(口内炎やウィルス性疾患など)、神経性疾患(疼痛や神経痛など)、交通事故やスポーツなどの外傷、顎変形症(うけ口や顎のゆがみ)などのさまざまな病気が含まれます。当科は口腔外科に特化した診療を行っています。

これらの病気にかかると、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害に加えて審美的な障害も生じます。治療により口腔・顎・顔面全体の自然な形態や機能が回復すると、顔全体がいきいきとし、健康的な美しさを取り戻すことができます。そのお手伝いをするのが口腔外科です。今回は舌がんについてご紹介します。



舌がんとは？

舌にできるがんで、口腔内で最も起こりやすいがんです。男性に多く、60代が最も多いとされていますが、20代や30代でも起こることもあります。舌がんは舌の側面にできることが多く、先端や中央にできることはまれです。



舌がんの症状は？

舌がんの症状はさまざまですが、痛みやしこりができることが多いです。赤いたれや白い斑点、出血を伴う場合もあります。また、舌がんは首のリンパ節に転移することがあり、首のリンパ節の腫れを伴う場合もあります。



口内炎との違いは？

一概には言えませんが、下記の場合、舌がんである可能性があります。

- 2週間以上治らない
- 硬い
- 出血を伴う



舌がんと似た病気は？

白板症

白板症は白い斑点で、前がん病変と言われており、4～14%程度癌化する可能性があります。



カンジダ症

カビの感染で、こすって取れる白い苔が出現します。抗真菌薬で治療します。



原因

喫煙



飲酒



虫歯を放置しとがった歯や合わない入れ歯などの慢性的な刺激



治療法

手術による切除が基本的な治療法となります。早期発見が重要になりますが、痛みなどの症状がなく進行して見つかることもあります。早期がんであれば、切除後縫合によって傷口をふさぎますが、進行がんであれば、前腕や腹部から血管を含めた皮弁による再建手術が必要になることがあります。



皮弁の血管と頸部の血管を顕微鏡を用いて吻合します。再建手術は、必要に応じ、形成外科、外科や整形外科と合同で行っています。

予防法

基本的に効果的な予防法ははっきりわかつていませんが、下記の項目が考えられます。

● 歯科医院へ定期健診



● 禁煙

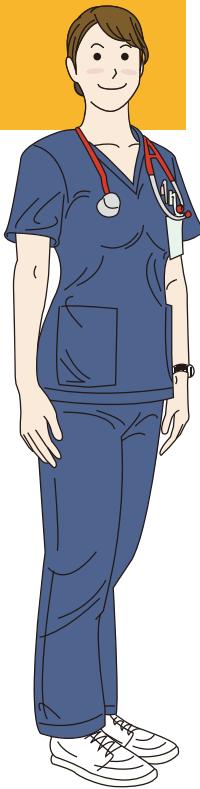


● 虫歯の治療や、合わない入れ歯の調整



「看護師の特定行為研修」実施中

看護部だより



医師は診察の専門領域がありますが、看護師の世界もさまざまな専門分野で活躍する看護師が次々と誕生しています。専門看護師・認定看護師は、精神科領域やがん領域などいくつかの領域で、高度な看護実践や、スタッフ・患者さんへの指導をしながら活躍しています。そして医療提供体制の充実と医師のタスクシフトを進めるため、2016年から特定行為を行う看護師も誕生しています。

特定行為というのは『診療の補助』で、医師や歯科医師の指示（手順書）のもとに行う医療行為です。例えば、手術後に人工呼吸器をはずす場合に患者さんの状態を観察しながら人工呼吸器を調整しはずしていく行為、動脈の採血を行い患者さんの状態を確認する行為など、従来医師が行っていた医療行為の一部を、研修を履修した看護師が担当できるようになります。現在、厚生労働省で38行為が決まっています。これまで医師が行っていた医療行為を担うわけですので、特定行為ができる看護師には、実践的な理解力・思考力及び判断力、そして高度な技能が求められます。



10/2
開講式



受講生の声



私は認定看護師として活動していますが、今回特定行為研修を受講し認定を受け、知識・技術の向上を図り、より迅速な患者対応を行うことで、患者さんの重症化や急変予防、早期回復へと繋がる質の高い医療の提供が行えると考えます。また、看護師だからこそ気づくことができる患者さんの生活を踏まえ、患者さん中心の医療、看護の提供ができるよう学習していきたいと思います。

救急外来 名取宏樹



医師による講義



グループワーク

■ 外来診療時の受付時間 **8:00～11:30**

- 一部、受付曜日や時間が異なる診療科があります
- 土・日曜日・祭日は休診です
- 担当医は、都合により変更することがあります

急病時の連絡先 **24時間** 受け付けています
救急外来 **054-253-3125** (代表)
心臓救急 **054-252-4399**

市民健診センター

東館 3階

人間ドック

予約制
当日結果説明

脳ドック

予約制
当日結果説明

健康診断

予約制
当日結果説明

レディース検診

予約制
当日結果説明



054-253-3125 (内線 5350)

受付 月～金 **10:30～16:00**
(祝日、年末年始除く)

